

# ななかま

鹿の角の 少し伸びている 夏の暮れ  
じじじじじ りりりりりとが 混ざる庭

少年老い易く学成り難し(しょうねんおいやすくなりがたし)

少年時代に楽をして努力をしないで、いやなことをさけていると、立派な人にはなれませんね。

**漢字**をものにするのは簡単ですか?と色々な人に聞くのですが、簡単にわかるようになったという人にあつたことはありません。左様に漢字習得に王道なし。漢字が分かると中国や韓国、日本の文化を深く知ることができます。漢字的な発想を身につけると世界を見る視野が広がります。柔軟な頭脳の持ち主である小中学生の皆さんにはできます。忙しくても寸暇を惜しんで取り組むことです。

自分を厳しい場に追い込んで  
初めて大きな力を手に入れる  
ことができるのです。



漢字を前にして、気後れしては  
次に進めません。将来の大きな勝利と幸福を信じて、今はひたすら困難に挑んでほしいです。

苦勞してこそ、大きな喜びはやってきます。そして、大きな勝利は、地道な努力の積み重ねによって引き寄せることができるのです。「千里の道も一歩から」、今日の新しい漢字ひとつ覚えることから始まるのです。

先生「教科書に、おほりばたつてあるけど、おほりばたつてわかるかな?」児童「うーん、わからない」「日本で見たことあるよ」「辞書を調べてみるね」(4年生の授業の一コマです)。これは一例です。学年が上になればもっとたくさんのが出てきます。中1の社会科では「造山帯」「風化」「浸食」「大陸移動説」「隆起」「沈降」が1時間の授業の中に当然のように出てきます。そんな日本語の洪水の中で、子どもたちはがんばっています。

## [講演会のご案内]

バイリンガル教育の専門家として知られる中島和子先生(トロント大学名誉教授)の講演会がNYで次の日程で行われます。子どもたちを超バイリンガルに育てるための多くのヒントが得られる内容です(英語通訳がつきます)。

日時 9月8日(土)10時~12時

会場 PC261(314 Pacific St. Brooklyn, NY 11201)

主催 ブルックリン日系人会家族会

参加費 \$5

## プリンス頓日本語学校(補習校部)



平成24年度 No.15号

平成24年 9月1日

文責 長尾重範

## 行事予定表

9月9日 JASL入学式

教育講演会「アメリカの大学進学事情」

9月30日前期授業終了(通知表を受け取る日)

10月14日21日 参観日懇談日

10月28日漢字検定

## 「百聞は一見に如(し)かず」(8)

Seeing is believing

「日本百名山」

深田久弥の名著「日本百名山」には、日本を代表する山々が紹介されています。なぜ100なのか、100番目と101番目とは何が異なるのかなど詮索は尽きませんが、それらの山々にはほかに比べて人を引き付ける魅力があるようです。

その中で群を抜いて高いのは富士山(3776m)です。運動靴でも登ることができる山ですが、ひとたび荒れると風雨雪の厳しさは想像を超えるものがあります。その高度ゆえに、和歌山県から見ることができるという報告があるほどに広角から見ることもできる、日本を代表する山です。日本で二番目に高い山を言える人は少ないかもしれません。それは北岳(3192m)といます。南アルプスの一番北側にそびえるどっしりと山塊の大きな山です。三番は奥穂高岳(3190m)、四番は間ノ岳(3189m)、五番は槍ヶ岳(3180m)となります。高い山と登りにくい山は同じではありません。富士山は登りやすい山、奥穂高岳は足を滑らせると100m以上転落してしまうような箇所がいくつもある危ない山です。それは地図上で等高線をたどっても想像するのは容易ではありません。

しかし岩壁をザイルを使って登るところでなければ、登山で遭難するのはほとんどが普段危険と思われる個所ではなくて、なんでこんなところで死んだんだろうと不思議に思われるところです。富士山では登りの人たちに道を譲って路肩に立った時に体がふらつき滑落して亡くなられたこともありました。油断こそが最も恐れるべきことなのです。

昔は麓から数日かけないと頂上にたどり着けないような山が多くありましたが、林道や登山道が整備されて、乗鞍岳(3026m)や立山(3015m)のように自動車道で山頂のすぐ近くまでバスなどで行けるところも増えてきています。